セックスの途中休憩　夜中にママと近くの空き地へ　ご近所さんと話してセックスパワー復活！

ママと午後九時からベッドルームへ行って六時間ずっとシックスナインしていた俺たち。

汗だくになり、肉からあふれ出る汁は全て吸い取り合い・・・・・何時間も何時間も・・・・。
さすがに少し疲れたかなということでママと相談し合った。

「はぁはぁはぁ・・・・んはぁっ・・・んくっ・・・・すごかったねママ・・・・もう３０回目の射精だよ」

ベッドからは大量の液体がカーペットに滴り落ちている。

学校帰り、すぐに食事を済ませシャワーを浴びた後のことだ。そこから階段を駆け上がり、一緒に裸になってむさぼり合っていた。

「・・・・・・・そうねぇ・・・・だいぶエネルギーも消耗してきたかも・・・・・」

午前三時。

俺たちは近くの空き地へ向かうことにした。

一種の休憩というか。

長距離マラソンでも給水所がちゃんとある。

なんでもそうだ。

仕事だってちゃんと休憩時間が確保されているわけで。

ママとのセックスも仕事くらい当たり前の日常と化している今、休憩は必要なのだ。
ママとは基本は寝る時以外ずっとしている。
まるで空気を吸うように。

だから息継ぎは必要なのである。

服を着て玄関を出る。

ママはスウェットを穿いている。

こんな夜に親子でジョギングにでも行くのか・・・・・という感じで、道路ですれ違った男性が不思議そうに俺たちを見ていた。

俺の住む街は夜も静けさが止むことはない。

近くに２４時間運営のパチンコ屋とカプセルホテルを兼ねたネットカフェ、ゲームセンターなどがあり、コンビニも軒を連ねている。

スナックやバーも多い。

いわゆる水商売をしているママ友も多いママ。

夜、丑三つ時を過ぎても街はある程度はいつも活気づいていて、この日も然りだった。

空地へ向かう。その横には２４時間運営のコインランドリー、そして小さなバーがある。

「あっ！！ユカリさんじゃないっ！！どうしたの？こんな時間に・・・・」

案の定、空き地で知り合いの女性と立ち話をすることになっ

た。

「息子とずっとセックスしていたのよ。寝室で。だけどもうずっとずっとし続けてるものだから、汗かいて疲れちゃって・・・・」

ママ友だった。

「そうなのっ！！！当たり前のことだけどね！！」

彼女の息子さんは俺よりももうずっと上で、孫が出来そうな年齢。

彼女は続ける。

「普通じゃない。いいことよ、いいこといいこと。うちだってさすがに今はなくなったけど、昔はずっとずっとアナルセックスしていたものだもの・・・・」

（体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました）